

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-1-1
企業の競争力強化

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

木材振興室長 日下淳一

電話番号

0852-22-5156

事務事業の名称	中海水中貯木場管理運営	
目的	(1) 対象	合板製造業
	(2) 意図	合板用原木の安定確保を図るため、貯木場の適切な管理運営を目指す
事業概要	中海水中貯木場の適切な管理運営をするために、巡視活動、施設の修繕、水質・底質調査などを行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 安全な施設管理	目標値		120.0	40.0	40.0	40.0	回
	式・定義 施設巡回回数	取組目標値						
		実績値	120.0	120.0	105.0			
		達成率	-	100.0	262.5	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	94,198	12,918
うち一般財源 (千円)	5,203	12,918

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

中海水中貯木場は、輸入原木の需給変動を踏まえて、H24から休止している。施設の老朽化が進み、荒天時にはパイ・フローター等が流出する状況となっていたため、平成29年度に老朽化したパイ・フローター等を撤去した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

H29に老朽化したパイ・フローター等の撤去工事を完了した。これにより、パイ・フローター等の流出はなかった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

H24からの休止にともない、利用料収入はない。合板製造業者が利用を再開した場合を考慮し、貯木場として最低限度の管理としている。

②困っている状況が発生している「原因」

当面、合板製造に係る原木輸入を見通せない状況にある。

③原因を解消するための「課題」

合板製造に係る原木輸入が増となる可能性もあることから、貯木場利用の再開に備えて、河川占用を継続する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

貯木場利用の再開に備えて、必要最小限の施設管理を継続する。